

カタカタ通信

第12号



「愛は強し～真相編～」

2022年3月7日

第9号で紹介した2羽の羽づくろい事情。相変わらずオスの空がメスの花に羽づくろいをする時の力は強いです。（気になる方は第9号の記事「愛は強し」をご覧ください。）

さて、その記事を書いていた時、先輩飼育員に「こんな記事があったよ！」と教えていただきました。それは…

『相互羽づくろいは、コミュニケーション以外の目的がある』というものでした。

その目的とは、そう…

寄生虫対策です。

読んでみると、ユタ大学のVillaさんたちグループが行った相互羽づくろいの頻度と寄生虫の数についての研究が書かれていました。（Villaさんのグループはカワラバトを観察していました。）

その研究によると相互羽づくろいの頻度と寄生虫の数に強い関係性があることがわかりました。

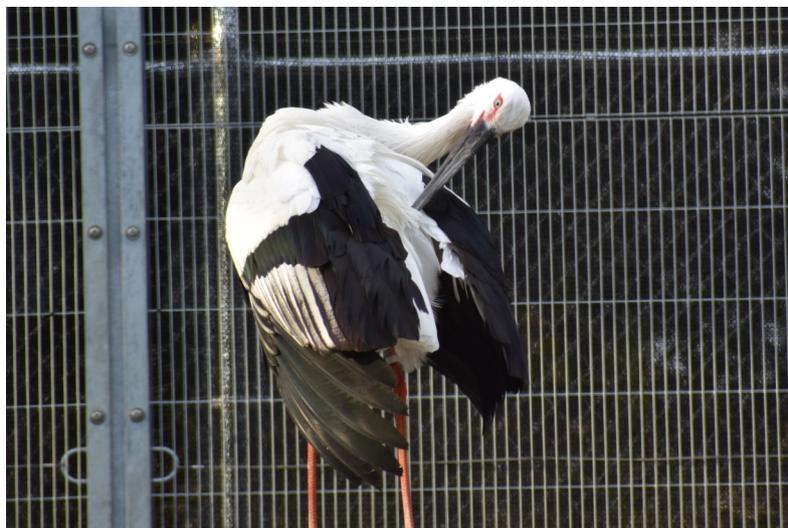


顔のまわりをしっかりと羽づくろい

比べて、自分で羽づくろいをする頻度と寄生虫の数には弱い関係しかありませんでした。どうやら自分で羽づくろいするよりも相互羽づくろいの方が寄生虫の除去に役立っているようです。

寄生虫の幼虫は特に頭や首など、自分では羽づくろいがしにくい場所に集中しているようです。相互羽づくろいはそのような場所に対して行われているため、寄生虫の除去に役に立っているのではないかと考えられています。

天空の里のコウノトリたちも相互羽づくろいは主に頭や首、そして目の周りに行っています。毎日長く花の顔周りを羽づくろいしている空、もしかしたら空は一生懸命に、花の顔周りの寄生虫除去を手伝っているのかもしれないね。



背中はなんとか自分で羽づくろいできる

参考文献

バードリサーチ：意外に役に立っていた「相互羽づくろい」

<https://db3.bird-research.jp/news/fushigi129/>

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター
飼育担当：かんちゃん